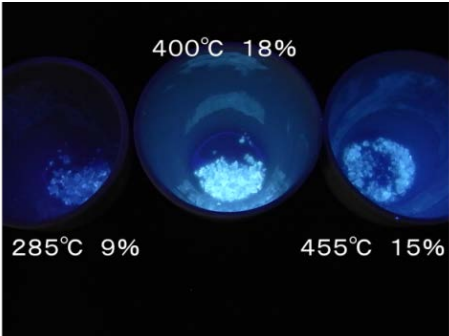


【大学シーズ情報】 ※印の項目は必須項目ですので、ご記載ください。

◇本事業では、大学の「知財」「技術シーズ」全般を取り扱います。

特許の有無は問いません。

大 学 名 東京都立産業技術研究センター

<p>※研究タイトル</p>	<p>高効率炭素ドット蛍光体</p>
<p>※研究者の所属学部 学科、役職、氏名</p>	<p>材料技術グループ、副主任研究員、林孝星</p>
<p>技術のポイント</p>	
<p>現在の研究開発段階</p>	<p>A 基礎研究段階 ・ B 試作段階 ・ C 実用化段階</p>
<p>※技術の紹介</p>	<p>細孔径が制御された多孔質シリカを鋳型とし、合成条件を最適化することで、高効率に発光する炭素ドット蛍光体を開発。 小さな細孔を利用することで発光効率が上昇する。そして、さらに、飽和 NaCl 水溶液を添加すると、発光効率は急激に上昇。</p> <p>【図】</p>  <p>合成手順の概要</p>  <p>TG-DTAで得られた炭化温度で合成した蛍光体</p>

大学名

<p>研究の背景</p>	
<p>従来技術より優れている点</p>	
<p>※技術の 用途イメージ</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 近紫外線を吸収して青色発光。</li> <li>2. 蛍光発光する SMPS 粒子や SMPS 薄膜としての応用。</li> <li>3. 鋳型から取り出して、蛍光塗料などへ応用</li> </ol>
<p>中小企業への期待</p>	
<p>知財情報 (注) 特許番号がありましたら記載ください</p>	<p>多孔質シリカに内包された炭素粒子蛍光体、炭素粒子蛍光体、多孔質シリカに内包された炭素粒子蛍光体の製造方法および炭素粒子蛍光体の製造方法： 特願 2014-125217 (慶應大との共願)</p>